

HIROSHIMA UNIVERSITY BHS NEWS

Hiroshima University Graduate School of Biomedical & Health Sciences

目次

Preface 巻頭言	
「医歯薬保健学研究科から 医系科学研究科へ」……………	大段 秀樹 1
Greetings ご挨拶	
「就任のご挨拶」……………	吉永 信治 2
My Motto 座右の銘	
「心配するな、なんとかなる」……………	末田泰二郎 2
「C'est la vie」……………	菅野 雅元 3
Activities 研究科の活動	
「研究科附属死因究明教育研究センター 看板除幕式」……………	安井 弥 3
「学際的研究推進部会 (5つの教員グループ)の紹介」……………	田原 栄俊 4
Research Frontline 研究最前線	
「静磁場刺激による非侵襲的な 皮質興奮性の抑制」……………	桐本 光 5
「緊急被ばく医療における再生医療の確立と 血管機能研究」……………	東 幸仁 6
Excellent Paper すぐれた論文	
「ミクログリアによる、 生後発達期神経回路の再編成」……………	橋本 浩一 7
Air Mail 広大から海外へ留学している若手からの便り	
「米国セントルイス・ワシントン大学留学便り」…	浅田 梨絵 8
編集後記……………	高橋 真 8

医歯薬保健学研究科から医系科学研究科へ

大学院医歯薬保健学研究科長 大段 秀樹



広島大学では、機能強化に向けた組織再編の一環として、統合生命科学と医系科学の2研究科を2019年春に設置することが決まりました。2020年春には大学院の研究科は現在の11から5に再編され大括り化される予定です。医系科学研究科では、既存の医歯薬保健学研究科における教育・研究のさらなる融合とともに、他の研究分野との横断的なプログラムを提供できる教育課程の編成により、所属する学位プログラムで深い専門性を身に付けるだけでなく、分野を超えた教員の講義を受講することで幅広い知識を修得することが可能となります。また、統合生命科学研究科とも強く連携して、共通の教員で構成される分野横断型の学位プログラムも設置されます。この組織構造は、生産的なグローバル企業に広く採用されている「マトリックス組織（部門編成を網の目のように交差させた形態）」に似ています。マトリックス組織は、専門性を保ちながら迅速に社会実装化・グローバル化する為には、非常に有効な形態です。医学・歯学・薬学・保健学の4分野における縦断的研究の深化を基盤として、ミッションのための横断的な分野間の連携・融合が強化できる組織体制です。横断的な分野間の連携・融合は、現在活動が活性化している学際的研究推進部会「がん・ゲノム医療」、「脳・神経科学」、「再生・免疫・感染・アレルギー」、「老化・高齢者医療・生活習慣病・社会医学」及び「発生・発達・成長期医療」の5つのグループによって実現可能です。

本学は、研究・教育・社会貢献で世界トップクラスを目指す大学として文部科学省が支援する「指定国立大学法人」制度への採択を目指しています。指定には、世界最高水準の教育・研究を展開できる大学であり、特に人材育成と研究力の強化、それを支えるガバナンス・財務基盤があることに加え、社会からの評価を得ていく好循環を生み出せる大学であることが求められます。医系科学研究科では、ユニークな組織の特性を活かし、「指定国立大学」への一翼を担う所存でございます。今後とも、ご支援を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

